

令和3年度使用中学校用教科用図書採択結果等について

採択地区名 呉市

種 目	発行者	採 択 理 由
国 語	三省堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の読み方や思考方法，語彙に関するコラムを設けており，学習の定着を図るとともに，学習したことを実際の社会や生活で活用する言葉の力を育むことにつながる工夫がある。 ○ 古典教材のコラムには，文法的な内容だけでなく，古典の読みを深めるための内容があり，学習を通して古典の世界に親しむことができる工夫がある。 ○ 話し合いをつないだり深めたりするための，「思考の方法」や表現例を示しており，実際に生徒が目的に応じて活用しやすい。
書 写	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小単元の振り返りでは，評価の観点に沿って，「書写のかぎ」や書写の用語を使って学んだことを自分の言葉で説明する活動を設定しており，生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫がある。 ○ デジタルコンテンツは，執筆する動画をポイントが分かるように編集するとともに，音声によるポイント説明もあるため，実際に生徒が執筆するときの参考にしやすい。
社 会 (地理的分野)	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基礎的・基本的な技能を確認する「スキル・アップ」や，節や章のまとめで，知識・技能を確認する「基礎・基本のまとめ」と思考力・判断力・表現力に対応した課題解決をする「まとめの活動」を設定しており，学習の基盤となる知識・技能等を身に付けさせる工夫がある。 ○ 単元を貫く課題として，節の初めに「学習の視点」とともに「探究課題」を示し，節の最後に，それに対する考えを学習した内容を使って表現する活動を仕組んでおり，単元を通して，生徒が主体的に学習に取り組めるような工夫がある。
社 会 (歴史的分野)	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1時間の学習課題を設定するとともに，それに対応した2段階の学習活動を示すことで，学習課題を達成するための手順を踏みながら，基礎・基本の定着を図ることができる工夫がある。 ○ キャラクターの問いかけから章及び節の学習課題を導くよう構成しており，単元を通じた主体的な学習を促しやすい。 ○ 「基礎・基本のまとめ」と「まとめの活動」を段階的に位置付け，問いや着目させる視点を示すことで，生徒は思考を整理しやすい。また，章の導入で設定した探究課題とまとめが連動しており，一貫した学習の流れの中で，目的に応じて思考し，表現する力を育成することが期待できる。

<p>社会 (公民的分野)</p>	<p>東書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「対立と合意」と「効率と公正」についての理解を深め、これらの視点に着目した思考を働かせるよう課題を時系列で3つ示すなど、現代社会をとらえる見方や考え方を理解させるための工夫がある。 ○ 大単元の導入において、課題意識をもたせる活動と合わせて、単元全体を貫く「探究課題」を示し、学習内容への興味・関心を高めながら円滑に学習に入ることができるよう工夫しており、生徒に学習の見通しをもたせやすい。 ○ 「探究課題」と連動したまとめを設定し、「まとめの活動」の中で、「探究課題」を解決することができるようにしており、生徒の思考力・判断力・表現力を育成することが期待できる。
<p>地図</p>	<p>帝国</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広島市周辺の地形図に土砂災害があった場所等を掲載したり、防災に関する資料図に【防災】マークを付けたりしており、詳細な資料から、地域の防災について考えることができる工夫がある。 ○ 資料等の活用方法の示し方として、地図活用の技能を身に付けるための問いとなる「地図活用」のマークを記載したり、資料図のページで扱ったテーマに対して図を見るときに着目する視点として、「学習課題」を示したりしており、生徒が技能を身に付けたり地理的な視点を使って考えたりするための工夫がある。
<p>数学</p>	<p>東書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の導入で、章を通して身に付けさせたい力を学習課題と関連させて、タイトルと文章で示しており、生徒に学びの目的を明確に意識させやすい。 ○ 問題解決を進めるときの流れを、巻頭及び本文の中に特設ページを設けて記載しており、主体的に問題解決に取り組ませるための工夫がある。 ○ ノートやレポートのかき方を具体的に示しており、自分の考えをまとめさせる際、活用しやすい。
<p>理科</p>	<p>東書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習内容に関する写真とともに、単元の学習前後で生徒に考えさせる「問い」を示しており、生徒は見通しをもって学習に取り組むことができる。 ○ ページの内容が、探究の過程のどの部分に当たるのかを強調表示しており、視覚的に理解しやすい。 ○ レポートの作成方法では、共通の説明に加え、各学年ならではの補足説明があり、生徒が科学的な概念を使用して考えたり説明したりする言語活動の助けになる。

<p>音 楽 (一般)</p>	<p>教 芸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習目標を、各教材のページの左端又は右端に縦書きで示し、その下に重点的に扱う音楽を形づくっている要素を示している。また、教材名の下に、学習目標達成を支援するために、着目点を明確にした活動文があり、分かりやすい。 ○ 各学年に資料として、音楽を形づくっている要素の内容を掲載している。題材との関わりが分かるようページや曲名を示し、それぞれの教材との関連を生徒に意識させる工夫がある。 ○ 旋律、音色、強弱等、音楽から聴き取ったことと自分の考えを整理できるワークシートや、キャラクターの吹き出しで〔共通事項〕に着目した工夫の仕方等を示し、生徒の思いや意図を明確にした言語活動を充実させるための工夫がある。
<p>音 楽 (器楽合奏)</p>	<p>教 芸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ リコーダーの学習では、トーンホールの閉じ方のイラスト等、生徒のつまずきを想定した内容の掲載がある。また、「姿勢と構え方」では、リコーダーを構えて違う角度から見た複数の写真や、短い文でポイントが掲載してあり、分かりやすい。 ○ 箏の学習の最後には、創作活動として「My Melody」が設定されている。創作の手順が具体的に分かりやすく示してあり、主体的に学習に取り組むための工夫がある。 ○ 「アンサンブルセミナー」等では、各教材の学習目標の下に重点的に扱う音楽を形づくっている要素を示している。また、「アンサンブル」で扱う各教材名の横には、音楽を形づくっている要素に関わるめあてが示してあり、生徒に着目させるための工夫がある。
<p>美 術</p>	<p>光 村</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 形や色彩、材料や用具の取扱い等に関する動画の二次元コードとともに、動画の内容を示している。特に、第1学年で動画を豊富に掲載しており、基礎・基本の定着につながる工夫がある。 ○ 実際の作品の仕上がり近付いたり、作者の表現の工夫を書き込んだりすることで、実感を伴って理解できるようにしている。 ○ 「発想を広げる」のページを設け、様々な発想法を示すとともに、言語活動を使った例を複数示しており、参考にしやすい。
<p>保健体育</p>	<p>東 書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 習得すべき基本用語を「キーワード」として示したり、巻末に解説を加えたりしており、生徒が学習内容の意味理解を深めることができる。また、各章末のまとめにおいて、生徒が学習内容を実生活に生かすことができるような工夫がある。 ○ 「D」マークコンテンツ内容一覧を示しており、学習を支援し、生徒が主体的に課題解決に取り組めるような工夫がある。 ○ 生徒が学習内容に応じて、参考にしながら学びを深める活動につなげることができるよう、言語活動の具体例等を豊富に掲載している。

技術・家庭 (技術分野)	開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての製作実習例において、学習過程が一目で分かるよう掲載しており、生徒に学習過程を意識させやすい工夫がある。 ○ 工具や道具類の使用方法について、矢印や囲みを使って動かす方向や拡大図を示しており、視覚的に分かりやすく参考にしやすい。
技術・家庭 (家庭分野)	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の実践例を豊富に掲載しており、レポート等を作成するときに、まとめ方をイメージしやすく、主体的な学習を促しやすい。 ○ 加熱調理法として、6種類のマークを示すとともに、それに合わせて、多様な具体例を掲載しており、学校や家庭での実践につなげやすい工夫がある。 ○ 各教科等の学習内容との関連を「リンク」マークや「他教科」マークで示している。また、関連する他教科の動画等をコンテンツで見ることができる。
英 語	東 書	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元末で、単元の目標に対応した統合的な言語活動を設定するとともに、単元の目標に対する振り返りを行い、評価する場を設定しており、生徒が学習に見通しをもち、主体的に学習に取り組めるような工夫がある。 ○ 第1学年の導入段階で、音声から文字へと段階的に復習できるなど、小中の学習を円滑に接続するための工夫がある。 ○ 各学年の学習到達目標と、それに至るまでの目標を3段階で示しており、生徒がこれまでに付けた力やこれから付けるべき力を把握しやすい。さらに、他学年や高等学校の学習到達目標も示しており、学びのつながりを意識して取り組める工夫がある。
道 徳	日 文	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道徳科での学び方を3つのステップで解説している。また、教材の中心発問や主題に関わる発問等を示すとともに、発問に対する生徒の考え等を別冊の「道徳ノート」に書き込む工夫もある。 ○ 生徒が問題解決的な学習を意識できるよう、該当する教材にマークを付けるとともに、「学習の進め方」において学習展開を具体的に示しており、生徒の主体的な学びを促しやすい。 ○ 現代的な課題である「いじめの問題」について、直接的・間接的に扱った教材やコラムをユニット化して複数配置し、年間を通して学習する構成になっており、効果的な指導ができる。